

# 第50回 向丘地区青少年美術展

平成30年11月10日(土)・11日(日)2日間の展示中、延べ1,184名の方の来場がありました。絵画・書道を併せて、1,061点の作品が展示されました。



絵画の部 大賞  
伊豆本 莉乃さん

小さな魚のむれを書いた時、1ぴき1ぴきのもようをかくのがたいへんでした。絵を習い始めて2年でこの賞をとれてうれしかったです。

書道の部 大賞  
斎藤 凜々子さん

毎年応募してきた美術展で大賞を受賞できた事、とてもうれしく思います。言葉の響きで決めたこの「明鏡止水」でしたが、半紙に向かい一文字一文字とめやはねに集中する書道の時間は、私にとってまさに「明鏡止水」な気持ちになれるひとときなんだと気付くことができました。これからも続けていきたいと思えます。ありがとうございました。



今年度は節目の年であることから、11日の表彰式の後、川崎市立高津高等学校書道部による「書道パフォーマンス」を記念イベントとして行いました。多くの方にご観覧いただき、盛況に開催することができました。

イベントの最後には、向丘地区青少年指導員会森山会長と川崎市議会矢沢議員の二人に人生初の太筆書きにチャレンジしていただき、会場を大いに盛り上げていただきました。



## 向丘地区青少年美術展のちょっと裏話

実は、本美術展を開催するにあたり、影の苦勞が沢山あります。まずは、審査会が開催されます。



審査会には多くの人員を必要とします。審査がしやすいように作品を並べたり、作品を運んだりします。審査終了後は、子ども会の方にお手伝いいただき、作品を展示しやすいよう、学校別・学年別に貼り合わせる作業を行います。



実際の美術展は土曜日・日曜日と開催されますが、その前日(金曜日)から準備が始まっています。展示の土台となるパイプで枠組みを作り、所定の場所に設置したら、画鋸が刺せるよう、木の板をはめ込みます。



更に、作品を際立たせるよう下地の布を張ります。また、壁面にも針金やクリップを使い布を張ります。高所での作業になりますので、脚立を使い行います。



最後に作品を展示し、最終的に皆さんが目にする会場が出来上がるのです。



このように、日数や人員、労力を多く費やし、美術展は開催されています。